

大学という異文化への適応に関するPAC分析

小林 浩 明
(国際教育交流センター)

キーワード

学部留学生 PAC分析 日本語学校 大学 適応

要旨

本稿は、大学に入学してから約10ヶ月が経過した学部留学生1名に対してPAC分析を行った研究である。その結果、研究協力者のKさんは、イメージした10項目から「授業以外の生活」「人生に欠かせないもの」「大学勉強に必要なもの」という3つのクラスターに分類した。「試験」と「クラスメイト」の2項目については、マイナスのイメージを持っているものの、その2項目を含むクラスター「大学勉強に必要なもの」では、暖かいプラスのイメージを抱いていることがわかった。留学生の持つ課題や困難点は、一人一人の留学生の中でどのような全体構造を持っているのかを知ることが大切である。

1. はじめに

大学の学部に入學する留学生は、日本語学校を経てから入學する者が多い。近年、高校在学中に留學したり直接入學したりする者もいるが、大多数は日本語学校を卒業した後に学部留学生となる。『日本留學試験』や大学の入學試験を目的とする日本語学校の教育は、日本の高校教育の現状と酷似しており、初年次教育や移行期教育における課題は、一般学生だけでなく、留学生にとっても共通の課題と言えるだろう。しかしながら、多くの先行調査（藤井・門倉2004；中園2006；川上2011）では、あらかじめ項目が設定されていたり、回答を分類しているため、個々の項目についての詳細を知ることはできてもそれぞれの課題が全体としてどのような構造になっているのかを捉えることができない。そこで本研究では、新入生における大学

環境への主観的適応を研究した大久保（2004）にならい、学部留学生における大学という異文化への適応を研究するために、PAC（Personal Attitude Construct：個人別態度構造）分析を用いることにする。PAC分析は、量的研究と質的研究とが併用されている研究方法であり、心理学のみならず、コミュニケーション学、日本語教育学などの幅広い分野で適用されている研究方法である（内藤他2008；2011）。

2. 研究目的

本研究の目的は、日本語学校から大学へ進学し、実際に大学生活を半年以上経験した学部留学生1年生が大学生活に対してどのようなイメージを持っているかについて調べることである。

3. 研究方法

3.1 調査概要

研究協力者のKさんは、地方公立大学の中国人私費学部留学生（20代前半の女性）である。2年間日本語学校に在籍した後、日本語学校と同じ市内にある公立大学に入学し、経済学を専攻している。

Kさんが1年生の10か月目の時に、調査を行った。第1回目の調査の時には、連想刺激文から自由に項目（言葉）をイメージし、項目間の距離を数値で評定した結果をクラスター分析した。第2回目の調査では、クラスター分析の結果として表出されたテンドログラムをもとにインタビュー調査を行い、研究者と研究協力者が相互補完的にテンドログラムの解釈を行った。

連想刺激文

あなたは、昨年の春、日本語学校生から大学生になりました。あなたが留学生として大学生活について考えるとき、あなたの気持ちやあなたの取った行動を含めて意味あるものや重要なものとして、どのようなことばやイメージが浮かんでくるでしょうか。思いついた順に番号を付けて、カードに記入してください。

3.2 調査結果

連想刺激文に対してKさんは10個の言葉をカードに書いた。それをKさんにとって重要と思われる順に並べ替えた結果が表1である。

表1. 連想項目一覧

重要順	項目	想起順
1	生活	1
2	家族	6
3	バイト	3
4	勉強	2
5	友達	4
6	将来	5
7	試験	9
8	卒業	10
9	クラスメイト	8
10	遊ぶ	7

次に、各語の直感的イメージの近さを「非常に近い」から「非常に遠い」までの7段階で評価してもらい、その結果をHALBAU7のクラスター分析（ウォード法）にかけた。

4. 結果と考察

クラスター分析の結果は、図1に示した。図中の口はイメージした項目（言葉）である。クラスター分析によって得られたテンドログラムをもとに、協力者Kさんに半構造化インタビューを実施した。インタビュー項目は末田（2011）を参考にし、インタビューは協力者の許可を取ってICレコーダーに録音され、それを文字化して分析資料とした。インタビュー時間は約51分で、文字化資料はA4サイズで12ページになった。

4.1 研究協力者の解釈

協力者Kさんの解釈の要旨を示す。原則として、Kさんの発話をそのまま引用する。連想項目は【 】で表し、クラスター名は< >で表す。

4.1.1 各クラスターのイメージ

(1)クラスター1について

CL1は【生活】【バイト】【友達】【遊ぶ】の4項目。

「普通の【生活】ですよ。【生活】。授業以外の活動。」「留学生ですから【生活】するために【バイト】とかしないといけないと思います。あと、いつも【バイト】ばかりってというのがちょっとつまらなくて、つまらないと思います。だから、【友達】と【遊ぶ】だりとかして。これ勉

大学という異文化への適応に関するPAC分析

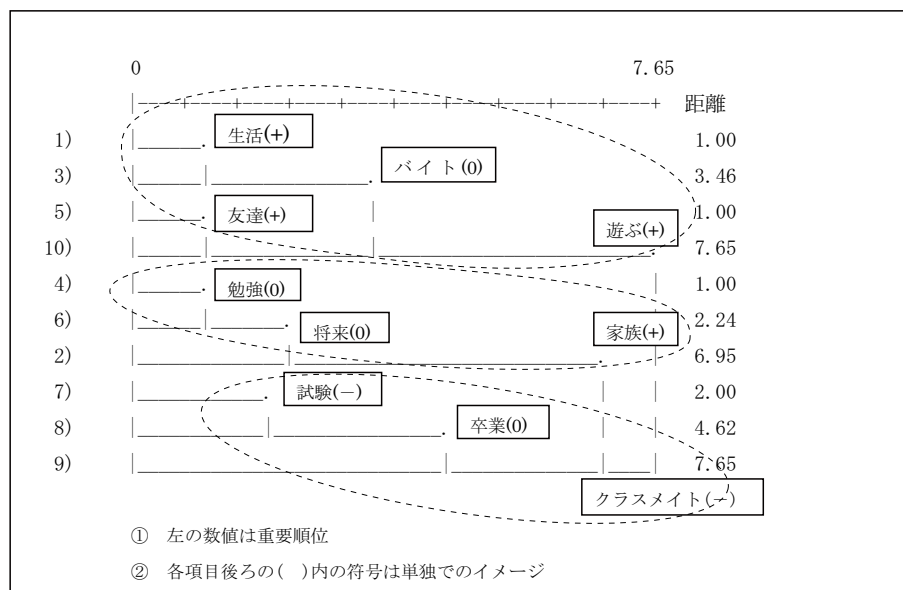


図1 Kさんのテンドログラム

強以外のことですね。」

CL1を《授業以外の生活》と命名した。

(2)クラスター2について

CL2は【勉強】【将来】【家族】の3項目。

「人生みたい。欠かせないもの。今までと今から。一番大事っていうか必要なもの。人生に欠かせないもの。」「これが今までと今からで欠かせないことと思いますよ。【勉強】は小さい頃から死ぬまで【勉強】するべきだと思います。はい、でも【勉強】しながら【将来】のことを考えないといけないと思います。考えないとちょっと貧しい生活になるかもしれないです。【家族】はもう本当に親とか親戚とかすごく大事だと思います。だから今からも【家族】と一緒にいたりとかして大事にしたいと思います。」

CL2を《人生に欠かせないもの》と命名した。

(3)クラスター3について

CL3は【試験】【卒業】【クラスメイト】の3項目。

「大学で元々【勉強】も入れると思うんですけど、【勉強】しないと【試験】もできないと思います。あと、大学でただ授業を受けたりとかしてじゃなくて、ちゃんと授業参加して、授業内容を理解してから【試験】を受けて単位とかもらって、最終的に、最終の目標は【卒業】ですよね？【卒業】してても、【勉強】することが一人だけのことじゃないです。わからないこ

ととか【クラスメイト】に聞いたりとかして手伝ったりとかしてもらったりとかすることもできると思いますから。これで大学生活じゃないですか。」

CL3を《大学勉強に必要なもの》と命名した。

4.1.2 クラスター間の類似点と相違点

(1)クラスター1《授業以外の生活》とクラスター2《人生に欠かせないもの》

「同じところは2番目の【将来】とか【家族】とか、全部【生活】に入りますね。だから2つとも【生活】ということと言えますと思います。今留学生ですけど【家族】に会えないし、いつも親からお金をもらったりすることが私自分自身的にはあまり良くないと思いますから、【バイト】とかしたりして、そうですね。でもちょっと違うところは、【友達】とかと【遊ん】だらいっぱい【遊ん】で【勉強】とかすることができなくなるじゃないですか。で、あの、【将来】なら【友達】いっぱいおると【将来】にも多分いいと思いますよ。【友達】、困ったとき【友達】が助けてきて、うんで、でも【バイト】をしたらいろいろ経験を積んで？積むこともできるし、【将来】にもいいと思います。・・だから今は【家族】ちょっと遠いんですけど、国に帰って行ったらとかしても、一緒ですね。」

(2)クラスター2《人生に欠かせないもの》とクラスター3《大学勉強に必要なもの》

「これは、結構関係があると思いますね。大学でも【勉強】しないといけないですよ。で【勉強】して【将来】にもとても役に立つと思います。確かに【卒業】したら今経済を【勉強】しているじゃないですか。でも、【卒業】してから全く別の仕事をするかもしれないですけど、大学で【勉強】した知識がいつでも使える、だと思えますよ。だから、うん、そうですね。あと一、【家族】。ちょっと今【家族】が遠いですよ。でも【勉強】しないと【家族】が怒るよ。【家族】に怒られますから、また少し関係があります。違うところは、2番目はずっと長い期間ですよ。ずっとのことで、3番目は大学のことでだいたい今の学校とかに行ってる間。短期間みたいな感じですね。」

(3)クラスター3《大学勉強に欠かせないもの》とクラスター1《授業以外の生活》

「同じところは、全部外国。外国で【生活】するために【バイト】してるし【友達】を作って。でもそれだけじゃなく、元々の目的は【勉強】とかして、したりとかして、大学に入ることが目的だったんですから。余裕の時間で【バイト】したりして、意味、同じ、同じ外国ですること？みたい。うん、そういう感じですね。違うのは、何かこっちとこっちは、両立、両立できないって言えないですけど、こっちしたらこっちができないみたいな。【勉強】するとき【バイト】ができないみたいな。半々するか、一つしないか。そのぐらいイメージね。私の場合は半々みたいで、普通に【勉強】してから【バイト】とかして。で、ずーっと【バイト】と

かすることもできないし、ずっと【勉強】したら【生活】できないですから、半々にしてますね。はい、そうですね。でも、うん、そうですね。こっちは【友達】とか【遊ぶ】ことが結構楽しいですけど、【クラスメイト】はですね、あまり交流とか話しとかあまりしないですから、ちょっとね。あん、すごく楽しいとか、あまりないと思います。ちょっと私の方が人見知りで、あまり人と話すのが苦手なんです。だから、うん。まだまだそうですね。」

4.1.3 クラスター全体の関係

「今の人生。そういうイメージ。今からではなく今まででないし、今ですね。この段階で日本にいるうちに大学にいるうちにみたい。全部私と繋がっています。全部必要ですね。大事が必要です。生活もバイトも友達も遊ぶことも全部必要不可欠。欠かせないっていうこと。」

4.1.4 補足質問

4.1.2(3)CL3《大学勉強に欠かせないもの》とCL1《授業以外の生活》の類似点と相違点を述べる中で、【友達】と【クラスメイト】が違うことを述べていたので、より詳しく説明してもらったことにした。

(1)友達

「友達は何かいつも、うーん、挨拶したり話したり遊んだりとか、一緒にする。一緒に勉強したりして。」

(2)クラスメイト

「クラスメイトはただ同じクラスで座って一緒に授業受けたりして、相談する時あるかもしれないですけど、次に会ったら、多分その人が多分私のことが覚えてないかなーと思う人。」「何か前も一緒に入門演習？(うんうん) 入門演習っていう授業があって、そこで一緒にメンバー、同じグループのメンバーがいて、でも今学期が会ったら、私の方から挨拶したいですけど、向こうは私のことを見ないですから、えー多分忘れたかなー、どうかなーと思って、挨拶できなかったですね。そういう感じ。この人、顔がわかっていますが、挨拶しても向こうが返事しないとちょっと何か気持ち的にもあまり良くないですから。話しぶらいみたい。日本人、だいたいそうみたいですけど。」「ただ授業で同じ授業を受けたりして、でも、今週は座るところが近くて相談とかできたんですけど、来週はまた別のとこ座って話すこともできないし。で、それぐらいですね。一回ぐらいだけ話とかして、あと全然話したことがないとかもいますけど。」「多分そういう人が、友達に、とは言えないと思います。」

4.2 研究者の総合的解釈

Kさんの調査結果は、図1のとおりである。連想項目10項目のうち、(+)項目は4つ、(-)項目は2つ、(0)項目は4つで、Kさんにとって大学生生活は、全体としてはプラスの方が強いイメージとなっている。これは、色や暖かさでイメージしてもらった結果と同じである。

Kさんは、CL1《授業以外の生活》とCL2《人生に欠かせないもの》のイメージをそれぞれ緑色と青色としている。Kさんにとって緑色は「元気がある」そうだ。「【友達】と【遊ん】だり」する「青春」のイメージを持っている。一方、青色は「落ち着いている感じ」があり「時間の流れ」を感じている。CL1《授業以外の生活》の方がCL2《人生に欠かせないもの》よりも暖かいイメージを持っているが、CL2は「普通」であり暖かいとも冷たいとも言えない。ここからKさんが人生の基軸となる《人生に欠かせないもの》を冷静に受け止めながら、大学生となった今の【生活】を若者らしく思い切り楽しもうとしている姿が見える。

Kさんは、CL2《人生に欠かせないもの》とCL3《大学勉強に欠かせないもの》のイメージをそれぞれ青色とオレンジ色としている。Kさんにとってオレンジ色は「普通に明るい」色であり「あったかい系の色」である。イメージでは、【試験】【クラスメイト】の2項目が(-)であるにもかかわらず、CL2《人生に欠かせないもの》よりも「あったかい感じ」がするのである。つまり、大学生活において【試験】や【クラスメイト】のことを思うと、マイナスのイメージが浮かんでしまうが、【勉強】が《人生に欠かせないもの》と思うKさんにとっては、大学での勉強そのものに対しては、明るいイメージが浮かんでくるのであろう。Kさんの前向きな姿勢がうかがえる。

Kさんは、CL3《大学勉強に必要なもの》とCL1《授業以外の生活》をそれぞれオレンジ色と虹色としている。CL1《授業以外の生活》が虹色になったのは、「生活ではいろいろなことがあったり」するからである。CL1《授業以外の生活》は「良いことも悪いことも」あるけれど、CL3《大学勉強に必要なもの》よりも暖かいが、CL3《大学勉強に必要なもの》もCL1《授業以外の生活》ほどではないにしてもやはり「あったかい方」なのである。ここからKさんにとって大学生活全体がとても明るく暖かいイメージを持っていることがわかる。

Kさんのテンドログラムが示す大学生活のイメージから、CL1《授業以外の生活》とCL3《大学勉強に必要なもの》が学部留学生としての今の大学生活を表している。Kさんは、人生において【勉強】に重きを置いているが、留学生生活をイメージした場合には、大学での【勉強】よりもまず《授業以外の生活》をすること、そしてその【生活】を成り立たせるための【バイト】とそれを支えてくれる【友達】の存在があつてのことだということがわかる。また、Kさんにとって【試験】や【クラスメイト】は個別に見た場合には、マイナスのイメージであるが、大学の勉強も暖かいものである。特に、【クラスメイト】に対してはマイナスのエピソードが

あり、【友達】とは言えない明確なマイナスの思いがあるけれども、CL3《大学勉強に必要なもの》として見た場合には、暖かいものになっている。つまり、PAC分析によってKさんの態度構造を全体的にとらえることができたので、一つ一つの項目ではマイナスであっても、全体としてとらえた場合、決してマイナスのイメージではないことがわかった。これが先行研究の項目別調査や項目別の分類ではとらえることができなかったところである。

5. まとめと今後の課題

日本語学校から大学に進学し、大学生生活を約10か月過ごした学部留学生が大学生活に対してどのようなイメージを抱いているのかについて調査したところ、全体的に暖かいプラスのイメージを持っていることがわかった。マイナスのイメージを持つ項目がありながらも、全体としてプラスのイメージを持つことがPAC分析によって明らかになった。留学生に対する調査で多用されている項目別に分けた質問紙調査や項目別に回答を分類する調査では、わからないことである。マイナスのイメージが強い項目を取り上げた場合、一見大学生活に強い不満を持っているように見えるけれども、そのような受け止め方がいかに偏ったものであり、いかに留学生本人の態度とは異なったものであるのかを忘れてはならない。

また、筆者は今回初めてPAC分析を行ったのであるが、PAC分析に留学生教育へ応用する大きな可能性を感じた。それは、Kさんの「私もちょっとびっくりしましたが、ほんとに考えたみたいですね。」「言えますね。今考えてたら、言えますね。これどういう関係があるか。」「うーん、さっきまで考えてなかったですけど。へー<笑い>」という発言に表れているように、まるであらかじめ回答を用意してきているようにインタビューの質問に答えていた。井上(1997)が紹介しているように、PAC分析が自己理解を促進することが研究協力者にとっても研究者にとっても感じられた。そして最後にKさんは「面白いです。」の言葉で締めくくった。

参考文献

- 井上孝代 (1997) 「カウンセリングにおけるPAC (個人別態度構造) 分析の効果」『心理学研究』第69巻第4号、295-303
- 大久保智生 (2004) 「新入生における大学環境への主観的適応に関するPAC (個人別態度構造) 分析」『パーソナリティ研究』第13巻第1号、44-57
- 川上尚恵 (2011) 「学部留学生が抱える「留学生問題」とは何か—信州大学経済学部留学生・日本人学生チューター・学部教員・学部職員から見た「留学生問題」—」『信州大学経済学論集』第62号、93-108

末田清子 (2011) 「19 PAC (個人別態度構造) 分析」末田清子・抱井尚子・田崎勝也・猿橋順子編『コミュニケーション研究法』ナカニシヤ出版

内藤哲雄 (2002) 『PAC分析実施法入門[改訂版]—「個」を科学する新技法への招待』ナカニシヤ出版

内藤哲雄・井上孝代・伊藤武彦・岸太一編 (2008) 『PAC分析研究・実践集1』ナカニシヤ出版

内藤哲雄・井上孝代・いとうたけひこ・岸太一 (2011) 『PAC分析研究・実践集2』ナカニシヤ出版

中園博美 (2006) 「島根大学の学部留学生に関する一考察—留学生生活の困難点を中心に」『島大言語文化：島根大学法文学部紀要言語文化学科編』第20号、41-63

藤井桂子・門倉正美 (2004) 「留学生は何に困難を感じているか—2003年度前期アンケート調査から」『横浜国立大学留学生センター紀要』第11号、113-137

英字題

PAC (Personal Attitude Construct) Analysis of University International freshman